

その他の浄水場測定結果

採取日はいずれも6月22日のものです。

浄水場	放射性ヨウ素	放射性セシウム		
		Cs-134	Cs-137	合計
ちば野菊の里	不検出	1800	1990	3790
北総	不検出	670	736	1406

ちば野菊の里 (平成23年6月29日現在)
汚泥の仮置き量/430トン ※仮置可能日数…67日

北総浄水場 (平成23年6月29日現在)
汚泥の仮置き量/615トン ※仮置可能日数…83日

空間放射線量の測定結果について

6月7日～9日に県が実施した空間放射線量の測定結果は下記の通りでした。
※1時間あたりの数値 単位はマイクロシーベルト

測定地点名	測定値(μSv/h)		地面の形状	測定日 天候
	1.0m	0.5m		
浦安市入船入船保育園	0.16	0.18	土	6月7日 曇り
市川市大洲大洲防災公園	0.20	0.21	土	6月7日 曇り
船橋市豊富豊富小学校	0.20	0.21	土	6月7日 曇り
千葉市若葉区源町 千葉市動物公園	0.13	0.14	土	6月8日 曇り
千葉市若葉区野呂町 千葉市泉自然公園	0.09	0.09	芝地	6月8日 曇り
市原市馬立馬立保育所	0.08	0.08	土	6月8日 晴れ
市原市大久保白鳥保育所	0.07	0.08	土	6月8日 曇り
成田市大和田成田市高岡保育園	0.14	0.15	土	6月9日 晴れ

各地の放射線量は文部科学省が示している校舎・校庭等の利用判断における暫定的な目安(1時間あたり3.8マイクロシーベルト)を下回りました。

海水浴場における海水中の放射能濃度測定結果について

6月14日・15日に県内の海水浴場18地点において海水中の放射能濃度の測定調査を実施。結果は下記の通りでした。

採水日	市町村	調査地点 海水浴場名	核種別放射能濃度[Bq(ベクレル)/L]		
			放射性ヨウ素 I-131	放射性セシウム Cs-134	放射性セシウム Cs-137
6月14日	一宮町	一宮	不検出	不検出	不検出
	長生村	一松	不検出	不検出	不検出
	白子町	白子	不検出	不検出	不検出
	大網白里町	白里中央	不検出	不検出	不検出
	九十九里町	片貝	不検出	不検出	不検出
	山武市	小松	不検出	不検出	不検出
	横芝光町	屋形	不検出	不検出	不検出
	匝瑳市	堀川浜	不検出	不検出	不検出
6月15日	旭市	矢指ヶ浦	不検出	不検出	不検出
	銚子市	銚子マリーナ	不検出	不検出	不検出
	富津市	富津	不検出	不検出	不検出
	鋸南町	勝山	不検出	不検出	不検出
	館山市	北条	不検出	不検出	不検出
	南房総市	根本	不検出	不検出	不検出
	鴨川市	前原	不検出	不検出	不検出
	勝浦市	守谷	不検出	不検出	不検出
	御宿町	中央	不検出	不検出	不検出
	いすみ市	大原	不検出	不検出	不検出

※不検出とは、放射能濃度が定量限界値に満たない(定量できない)ことを表します。
※定量限界値は、定量可能な最低濃度のことで、3項目ともに10Bq(ベクレル)/Lです。



柏井浄水場での視察風景

柏井浄水場に残る汚泥



私、本間は、平成23年6月定例県議会総合企画水道常任委員会における質疑応答の中で、浄水場の汚泥中の放射能の処分について次のような質問をしました。

①放射性炭素のみで放射能が不検出になったのかどうかについて、その後、研究したのか、また、取水時の放射能の量はどのくらいあるのか。

②浄水場の中のプロックに放射能が残っているのか、汚泥の中に大量の活性炭が残っていることになるのか。

③汚泥の中に大量の活性炭が残り、浄水課長がどのようにお答えしました。

①研究はしていません。今後、放射能測定器を導入するので、その時に源水を測つて放射能の量がどの程度になるか研究して参ります。

②放射性セシウムについて、通常の沈澱ろ過で除去できると言われており、放射性ヨウ素については低濃度の塩素処理、粉末活性炭の注入が効果をおよぼしています。

③そのとおりです。通常、河川水の中には砂利や濁質分があり、それを沈めるために

柏井浄水場/汚泥における放射線量測定結果

採取日	施設	放射性ヨウ素	放射性セシウム		
			Cs-134	Cs-137	合計
6月22日	東側	不検出	472	501	973
	西側	不検出	307	334	641

汚泥の仮置き量/1,730トン ※仮置可能日数…76日

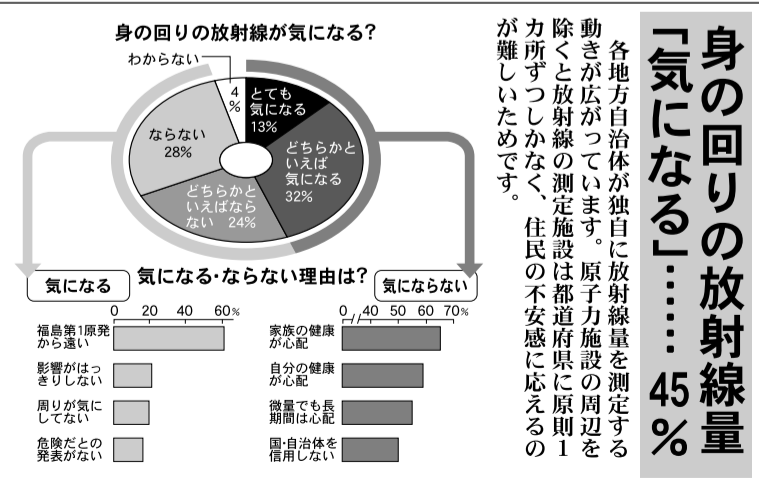
放射線についての様々な比較

私たちは、日常放射線とは切っても切れない生活をしております。下記に掲載してあります(表1)をご覧ください、日常の放射線がどの位かを把握いただけたらと思います。

(表1)

日本人が受ける自然放射線……1500 μSv/年=1.5mSv/年 ※(都道府県ごとにみると最大400 μSv/年の差)
世界の人が受ける自然放射線…2400 μSv/年=2.4mSv/年
ブラジルで受ける自然放射線 10,000 μSv/年=10mSv/年 ※(ガラバリ)
胸のX線集団検診……50 μSv/回
胃のX線集団検診… 600 μSv/回
胸部断層X線検診 6,900 μSv/回 ※(CTスキャン)
東京←→ニューヨーク航空機往復…200 μSv/往復
バナナ1本に約30ベクレル含有

日本人は年間1.5ミリシーベルトの自然放射線を受けていますが、世界平均では2.4ミリシーベルトになります。また、世界で一番放射線を受けてる地域では10ミリシーベルトに達しております。しかし、この地域で何か健康上の異変があるかという、そういうものはないということです。



浄水場における汚泥仮置可能日数 76日

東日本大震災後の県内の浄水場の状況を確認

平成23年6月29日現在

凝集剤を入れ、さらに活性炭を入れるので、汚泥の量は活性剤を入れた場合の方がかなり多くなる。と回答しました。ここで、花見川区柏井浄水場における放射線量測定結果を掲載しておきます。採取日は6月22日となります。

東日本大震災における千葉県内の商工業 直接被被害450億円

県は、平成23年6月21日、定例県議会一般質問の答弁で、東日本大震災に伴う千葉県内の商工業・観光業の建物損壊などの直接被被害額が約450億円に上るとの試算を明らかにしました。

県経済政策課によると、県内建物の被害率と工業統計、商業統計などのデータを基に試算。試算によると工業が約198億円、商業が約90億円、観光業が約29億円、火災が発生した丸善石油千葉工場とコスモ石油千葉製油所

の計約132億円を合わせ、総額約450億円の被害となりました。

また、ゴールデンウィークの観光客数が前年比16%減、宿泊客数が15.7%減だったとして、依然厳しい状況が続くと述べました。

私、本間は今回の震災と福島原発の影響で、成田空港の定期便が減便となったケースがあると思うが、その状況はどうか。また、成田空港の乗降客はどのくらい減少したか伺いたい。と述べました。

空港地域振興課長が回答。まず、先に旅客数については、4月の状況は前年比で38%マインスであり、これは、外国人客の到着数の減少の影響が大きく、特に4月の入国者は前年比で70%の減になっております。その後、各国の渡航制限の解除やアジア諸国からのツアーが再開されたこともあり、5月の外国人入国者は47%減となり、依然厳しい状況ではありますが、若干改善しております。

善の兆しが見えてくる場所です。旅客便については、県で集計したものであるため若干変更はあったものの2011年の夏のダイヤとして週137便が計画されていましたが、4月に入って実際に飛んだのが1207便、5月が1242便という状況になっております。と回答しました。